
Examined Japanese Utility Model Application, Publication No. JP-4-38701 Y2
Publication Date: September 10, 1992
Title: Bedding for an Animal

Japanese Utility Model Application No. JP-63-38867 Y
Application Date: March 24, 1988

Claim

Bedding for an animal comprising: a non-woven fabric made mostly from pulp, laid on a polyethylene film containing porous ceramics, and bonded at its edges.

⑫ 実用新案公報(Y2)

平4-38701

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公告 平成4年(1992)9月10日

A 01 K 1/015

A 8502-2B
B 8502-2B

請求項の数 1 (全3頁)

⑮ 考案の名称 動物用床敷

⑯ 実 願 昭63-38867

⑰ 公 開 平1-142654

⑱ 出 願 昭63(1988)3月24日

⑲ 平1(1989)9月29日

⑳ 考 案 者 田 中 寿 哉

静岡県焼津市西小川1丁目11番地の19 大池産業株式会社内

㉑ 出 願 人 大池産業株式会社

静岡県焼津市西小川1丁目11番地の19

㉒ 出 願 人 千葉アニマル資材株式会社

静岡県榛原郡榛原町静波1400-1

㉓ 代 理 人 弁理士 玉 腰 敏 夫

審 査 官 郡 山 順

1

㉔ 実用新案登録請求の範囲

多孔質セラミックスを含有するポリエチレンフィルムにバルブを主原料とする不織布を重ね、これらの周縁を融着して成る動物用床敷。

考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は例えば実験動物等の動物のケージ、又は受皿等の床に敷く敷物に関するものである。

〔従来の技術〕

大学病院、試験所、研究所等の実験研究機関等で飼育されるマウス、ラット、ウサギ、犬、猫、猿等の実験動物は通常ケージ内で治療観察、治療待機あるいは繁殖が行なわれる。ケージの構造は動物の種類によつて異なるが、一般的には金網の箱の床に金属トレーを入れ、その上におが屑、又は新聞紙等の紙を敷いて動物が排泄する汚物を受け、これを定期的に交換することにより衛生を確保している。

〔考案が解決しようとする課題〕

しかし、従来の様にトレーの中におが屑等を入れてこれに汚物を吸収させる方法は次の様な問題があった。

- (1) おが屑は天然の木から直接得られるものであるため、これを実験動物のケージ内に入れるようには微生物を事前に滅菌処理をする必要があ

2

り、体積が大きいため必要量の滅菌処理工程が面倒である。

- (2) 汚水を吸収させるためにはかなり大量のおが屑を必要とし、ポリウムが大きくなるため飼育個体数に制限が生じる。

- (3) 実験に用いた実験材料は機関外に廃棄することは許されず、内部で焼却する必要がある。その焼却処置作業においておが屑の場合、汚水を吸って膨張するため、作業が難しい。

- (4) おが屑は粉末であるため飛散しやすく周囲を汚染すると同時に作業員の健康、衛生上の危険性がある。

- (5) 新聞紙等の場合、吸湿性に劣るため、頻繁に交換しなければならない。

- かかる従来の動物用床敷において、上述の欠点を解消し、効率的に動物の汚物を処理出来る動物用床敷を作ることが課題となつている。

〔課題を解決するための手段〕

- 上記課題を解決するための本考案は次の手段をとるものである。

即ち本考案の実験動物用床敷は、多孔質セラミックスを含有するポリエチレンフィルムにバルブを主原料とする不織布を重ね、これらの周縁を融着したことを特徴とするものである。

〔作用〕

本考案のポリエチレンフィルムには表面積の大きい多孔質セラミックスが添加されているため、この多孔質セラミックスがアンモニア、トリメチルアミン、硫化水素等を吸着し、動物から排泄される汚物の消臭作用をする。

又、バルブを主原料とする不織布は吸水性を保水性に優れているため汚物中の水分を保持し、流れ出させない作用をする。

本考案の床敷はその周縁が融着され、袋状になっているため、不織布側からしみ込んだ汚水は量が増すに従ってポリエチレンフィルムの内側に溜まることになる。この袋状の床敷は新品と交換する時少々荒く扱っても汚水は袋の中にとじ込められており、汚物回収袋の作用をもする。

〔実施例〕

以下、図面を参照して本考案の実施例を説明する。

第1図～第2図は本考案の実施例を示し、第1図は床敷の平面図、第2図は同断面図である。

床敷1は下面がポリエチレンフィルム2、上面が不織布3の正方形又は長方形のシートであり、ポリエチレンフィルム2と不織布3は同形であり、これらはその周縁（周縁近傍であればよい）が融着され、全周に融着部4を形成している。従って、ポリエチレンフィルム2と不織布3は積層されているが固着されているところは周縁の融着部4のみであり、その融着部4に囲まれたポリエチレンフィルム2と不織布3との間には空間5が形成されている。

このポリエチレンフィルム2には多孔質セラミックスの微粉末が混練されており、この多孔質セラミックスは極めて表面積が大きいため、悪臭源であるアンモニア、トリメチルアミン、硫化水素等を吸着する。

又、この不織布は天然バルブのウェブに有機バインダーをスプレーして保形した乾敷不織布であり、吸水性、保水性に優れ、又、焼却の際に有毒ガスを発生しない。

次に本考案の実験動物用床敷の使用方法について説明する。

第3図は本考案の実験動物用床敷の使用例を示す説明図であり、動物用ケージ6の床の上にはアルミ製のトレイ7が置かれ、その中に床敷1が敷

かれている。

ここで用いた床敷1はバルブを主原料とする不織布として“キノクロス”（商標：本州製紙㈱製）（厚さ1.2mm、70g/ml、保水量20倍）を使用し、多孔質セラミックスを含有するポリエチレンフィルムとして“ユニエース”（商標：出光石油化学㈱製）を用い、これらを積層して全周縁を熱融着させたものである。

実験用マウスのケージに本考案の床敷を使用し、一定時間後新しいものと交換した。交換の際にはトレイ7と取り出し、汚れた床敷1を手で持つて焼却用汚物入れに入れたが、この時、汚水はポリエチレンフィルム2と不織布3の間で空間5に溜まっており、洩れることがなかった。

本実施例ではアルミトレイと併用したが、トレイなしに本考案の床敷のみでも十分使用可能である。

〔考案の効果〕

本考案は上述の構成であるため、次の効果を奏する。

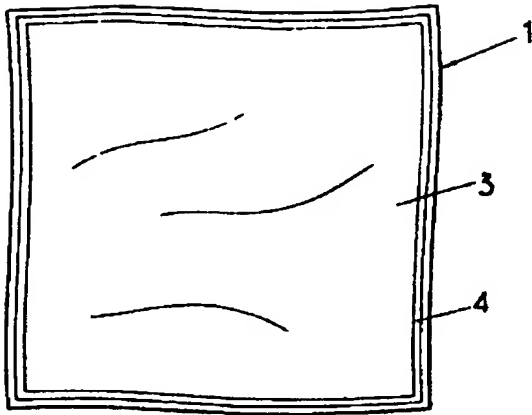
- (1) 多孔質セラミックスを含有するポリエチレンフィルムがアンモニア、トリメチルアミン、硫化水素等を吸着するため汚物を消臭する。
- (2) 不織布は極めて吸水性、保水性に優れ、汚水を大量に保持する。
- (3) 床敷が袋状になっているので、不織布が保水しきれなかった汚水を溜めることが出来、使用後の取り扱いが容易である。
- (4) 不織布の主原料がバルブであるため、焼却時有毒ガスを発生しない。又、多孔質セラミックスを含むポリエチレンフィルムは純粹のポリエチレンに比べて燃焼しやすい。
- (5) 不織布、フィルム共、工業的に衛生管理された環境で製造されるため、おが屑の様に使用前に滅菌処理の必要がない。

図面の簡単な説明

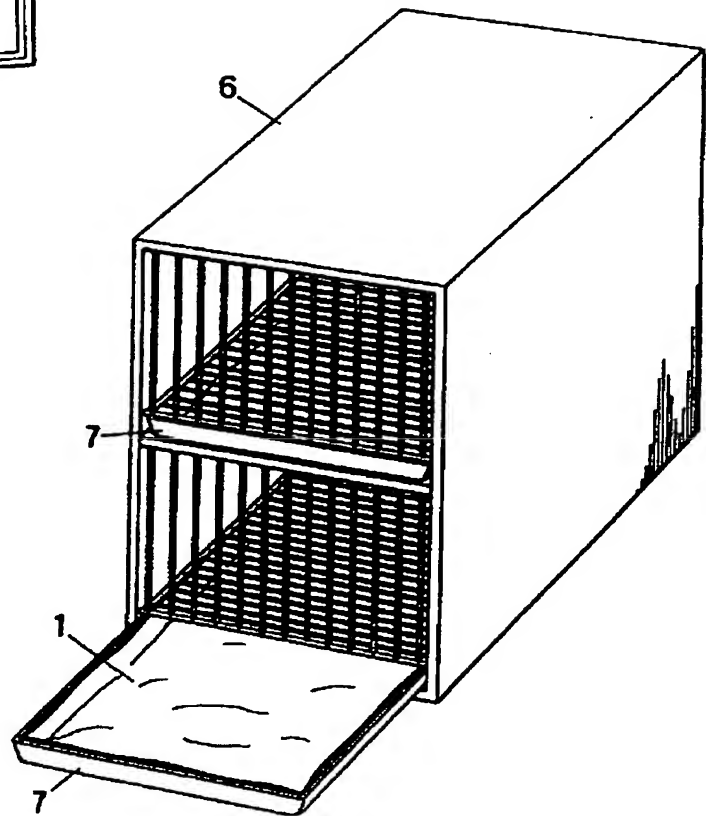
第1図～第2図は本考案の実施例を示し、第1図は床敷の平面図、第2図は同断面図、第3図は本考案の使用例を示す説明図である。

1……床敷、2……ポリエチレンフィルム、3……不織布、4……融着部、5……空間、6……ケージ、7……トレイ。

第1図



第3図



第2図

